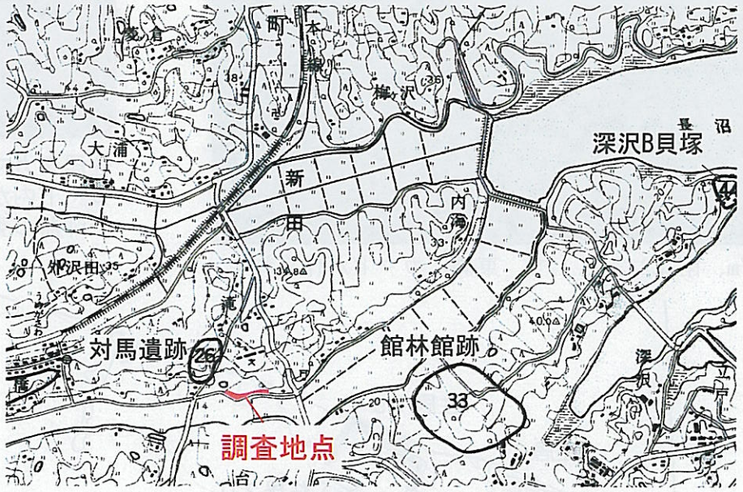
登米市迫町

滝塚発掘調査　現地説明会資料

平成２１年７月５日（日）１４：００～

調査要項

遺 跡 名：滝塚（たきつか）
所 在 地：登米市迫町新田字滝
調査主体：登米市教育委員会
調査協力：宮城県教育庁文化財保護課
調査原因：長沼ダム建設に伴う市道改良工事
調査期間：平成２１年５月１８日～７月末（予定）
調査面積：約２，２００㎡



滝塚の位置と周辺の遺跡

はじめに

滝塚は、登米市迫町新田字滝に所在し、長沼に向かって延びる標高１２～１８ｍの丘陵上にあります。以前は、塚周辺は遺跡として登録されていませんでしたが、塚状の高まりや竪穴住居跡とみられる窪みがあることは知られていました。長沼ダム建設に伴う道路工事が計画され、その後に行った現地確認で高まりは塚と考えられたため、平成１８年に「滝塚」として遺跡登録をしました。今回の調査の前に行った確認調査の結果、塚の周辺で竪穴住居跡２軒を発見し、対象地内には塚のほか奈良・平安時代の集落が広がっていることが分かりました。これを受けて、今回は道路工事により遺跡が壊されてしまう範囲を対象に調査を行っています。

滝塚周辺には、市史跡の対馬遺跡や、館林館跡、深沢B貝塚などの遺跡があります。とくに、対馬遺跡は調査区の80m北西側にあり、昭和29年に発掘調査が行われた著名な遺跡です。この調査では、奈良時代（８世紀）の竪穴住居跡と多くの土師器・須恵器が発見され、当地域での古代の様子の一端が明らかになりました。

発見した遺構と遺物

今回の調査では、奈良・平安時代の竪穴住居跡１０軒（住居４・６・７・１１・１４～１６・１９・２０・２２）溝跡３条（溝５・１２・１３）、土坑（穴）４基（土坑３・１０・１７・１８）、鎌倉～江戸時代頃の塚、江戸時代の墓４基を発見しました。遺物は、竪穴住居跡から、土師器、須恵器、土製の鈴、刀子、墓から陶器、土製の人形、煙管、鏡などが出土しています。以下、主なものについて説明します。

滝塚遠景（南から）

○竪穴住居跡

丘陵の南斜面で見つかりました。いずれも、地面を掘り窪めて、平らな床を作っています。住居６・７・１４・１９は完全に埋まりきっておらず、調査前から地表面が窪んでいました。年代は、出土遺物から８世紀後半から９世紀代（奈良・平安時代）とみられます。

もっとも残りのよい**住居１９**は、東西6.6m、南北5.2m以上で、東側にカマドが作られています。カマド内から、川原石を用いた支脚が使用されていたままの状態で出土しました。北辺では壁が高さ６０ｃｍも残っています。

○塚

東西7.5m、南北7.6m、高さ約1.2mの半球状の塚です。南に張り出す丘陵尾根頂部に黄褐色土と黒色土を積み上げて造られています。現時点では、造られた時期や目的は分かっていません。

○墓

１辺1～1.5mの長方形・方形をしています。塚の西～南側に４基並んで見つかりました。陶器、土製の人形、煙管、鏡が出土しており、江戸時代のものと思われます。

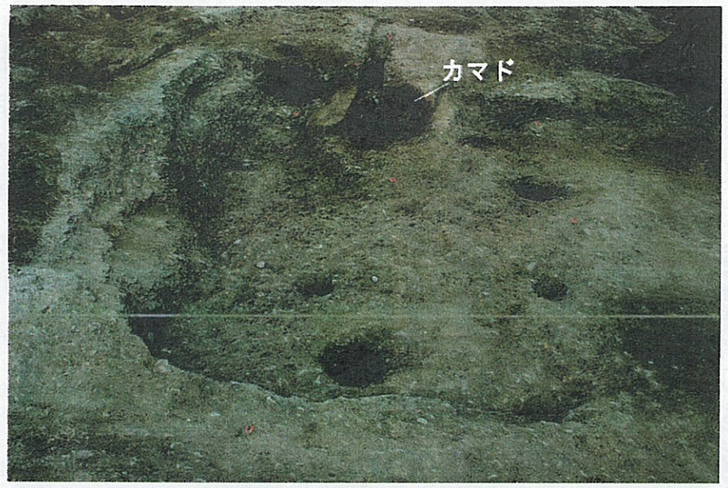
まとめ

- 発掘調査の結果、奈良・平安時代の竪穴住居跡・溝跡・土坑と鎌倉～江戸時代頃の塚、江戸時代の墓を発見しました。竪穴住居跡などは丘陵南斜面の広い範囲にわたって、塚や墓は丘陵尾根に限定して認められます。
- 竪穴住居跡は比較的残りが良く、住居の構造や集落の様子が明らかになりました。
- 塚は残りがよく、見晴らしの良い南向きの丘陵尾根頂部に黄褐色土と黒色土を積み上げて造られていることが分かりましたが、その時期や目的についてはまだ分かっていません。
- 本遺跡はこれまで塚として知られていましたが、今回の調査で、塚以外に奈良・平安時代の竪穴住居跡などがあることが分かりました。竪穴住居跡は調査区外にも広がっており、この丘陵一体が古代の集落として利用されていたと推定されます。また、地形的に西隣に位置する対馬遺跡と一体の遺跡となる可能性もあり、今後の調査に期待したいと思います。

塚の調査に際し、地権者の方の了解をいただき一部調査区の拡張をいたしました。感謝申し上げます。

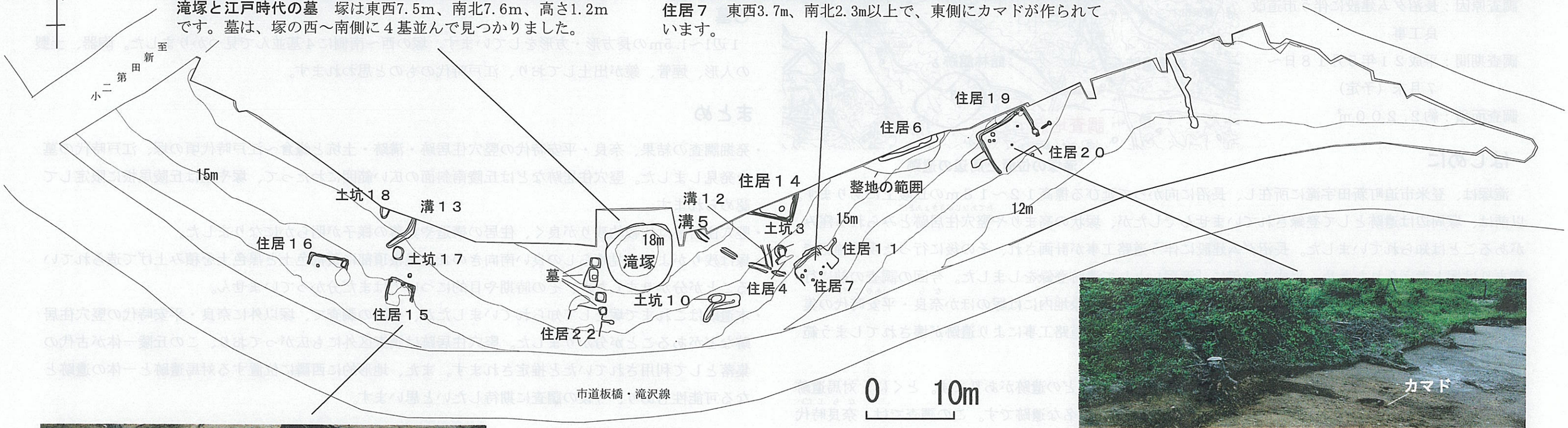
遺構：昔の人が地面に残した生活の痕跡。
塚：土を盛って造られた高まり。墓、行政の境、交通の目印のほかに、信仰の対象として造られることもあったようです。
竪穴住居跡：地面を掘り窪めてつくった家の跡。縄文時代以降平安時代までつくられていました。
支脚：カマドにかけた土器の底を支えるもの。土器や石、粘土塊など様々なものが利用される。
遺物：昔の人がつくった道具。
土師器：素焼きの土器。赤っぽい色で軟質のもの。東北地方の古代の土器は、内側を黒くするものがある。
須恵器：窯で焼かれた土器。青灰色や黒色で硬質のもの。

滝塚と江戸時代の墓　塚は東西7.5m、南北7.6m、高さ1.2mです。墓は、塚の西～南側に４基並んで見つかりました。



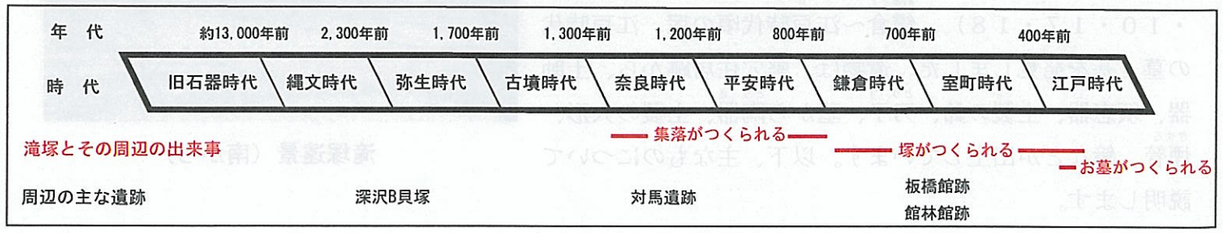
住居７　東西3.7m、南北2.3m以上で、東側にカマドが作られています。

住居７カマド　東側に作られています。カマド内から支脚として使われていた土師器の甕が出土しました。



住居１５　東西3.1m、南北1.8m以上で、北側にカマドが作られています。

住居１５土師器（甕）出土のようす

住居１９　東西6.6m、南北5.2m以上で、東側にカマドが作られています。北辺では壁が高さ６０cmも残っていました。

滝塚の歴史年表